醫學士片山芳林先生校閲
淸水貞雄先生纂著

●實用裁判醫學　全一册

訂正第二版　紙數四百余頁　正價金壹圓　郵稅金八錢

再版 本書出版以來大ニ江湖ノ喝采ヲ博シ今ヤ以テ高需ニ應スルニ至レリ

實用 ヲ經トシ精確ヲ緯トシ條理鮮明行文簡約ニ組織セリト雖𪜈斬新ノ學說モ亦網羅シ敢テ漏サズ

裁判 醫學大家カスペルリーマンホフマンタイロル氏等ノ成書及中外新刊雜誌ヲ資料トス

醫學 實地家ニ在テハ臨檢ト鑑定トニ應用セラレ受驗者ニ在テハ理解ト記臆トニ便益アリ

農科大學助敎授獸醫學士津野慶太郎先生纂著

●訂正再版 市乳警察論　全一册

實價金五十錢
郵稅金六錢

本書ハ牛乳檢査ニ關スル行政警察及實驗法ヲ論述セルモノニシテ記事ノ丁寧親切ナル文章ノ簡潔明晰ナル此類ノ著譯書斬新惟一ノ良書タリ殊ニ本版ニハ新タニ牛疫病乳ノ實驗記事ヲ始メ有益ノ事項ヲ附載セリ衞生警察吏員ハ勿論牛乳飮用者ハ必ラス一讀スヘキ好本ナリ

醫學博士弘田長先生校閲
醫學士戸田成年野口巳之助先生共纂

●幼科全方　全一册

洋裝袖珍美本●紙數四百七十二頁●正價金七拾五錢●郵税四錢

本書ハ專ラ獨逸國ブレスロウ府ノ小兒科大醫ジルベルマン氏ノ著書ニ就テ譯述シ傍ラヘノホ氏ゲルハルド氏バキンスキー氏等ノ諸小兒科書及諸雜誌ヨリ拔萃シ幷セテ戸田、野口兩先生ノ醫科大學ニ於テ研究セシ治療書ヲ增補セルモノニシテ小兒病ノ治則及處方、小兒生理的ノ總則小兒病理的異常等ニ於テ一日モ缺クヘカラサル必要ノ良書ナリ方今我國ノ醫學日ニ月ニ進歩シ從テ內外科其他諸科ノ著書譯書ノ類モ亦多キヲ加フレ𪜈小兒科ノ書ニ至テハ僅々指ヲ屈スルニ過キス弊舖之ヲ兩先生ニ覓メ更ニ醫科大學教授醫博士弘田長先生ノ校閲ヲ仰キ上梓セリ冀クハ世間實地家一書ヲ購ヒ坐右ニ置カハ稗益スルヿ豈ニ鮮少ナラサランヤ

改正局法第三版

●藥瓶標箋

賣價金四拾錢
郵税金六錢

弊堂先キニ前日本藥局法ニ基ツキ本箋ヲ印刷發賣セシニ大ニ好評ヲ博シタリ爾後之カ改正アルニヨリ訂正ヲ加ヘ再ヒ本箋ヲ發行スルニ至レリ本箋ハ實用ト廉價ヲ旨トシ美麗鮮明ナル各種藥瓶ノ帖箋ヲ印刷シ每箋ニ執筆スルノ勞ヲ省キ每箋ニ不同アルカ如キ醜觀ヲ除カハ日夜濟世ノ爲ニ劇忙ナル杏林諸君ノ便益モ亦鮮少ナラサルヲ信スルナリ

エムメリッヒ先生
トリルリッヒ先生 合著　醫學士佐藤勤也先生譯

●衛生檢査法導綱　全二册

上卷　紙數二百十餘頁　挿圖二十六個　賣價金五十二錢　郵稅金四錢

下卷　紙數三百二十頁　挿圖三十餘個　賣價金六十四錢　郵稅金六錢

右上卷発以來大ニ好評ヲ得タル本書下卷刻成リ首尾完全ス、下卷載スル所ハ第五編ヨリ第八編ニ至リ就中近時學者ノ最モ着目ヲ要スル水、土地空氣等ノ**黴菌學的檢査法**ヲ詳說シ加フルニ**飲食物檢査法**ヲ以テセリ斯道ニ志スノ諸君乞フ一本ヲ購テ座右ニ備ヘラレンヿヲ

藥學士大前寛忠先生校閲
島村信司先生編纂

●醫家必携　處方複顧

甲乙合卷紙數凡二百五十頁〇正價金貳拾錢〇郵稅四錢

〇甲号紙數凡五十余頁〇正價金六錢〇郵稅貳錢

〇乙号紙數凡二百余頁〇正價金拾錢〇郵稅四錢

本書出版以來醫家並藥劑師各位ヨリ陸續御申込アリ其順序ニ從テ郵送仕候處從來各位適宜ニ使用セラル、病床日誌及處方箋ニ比スレバ一層便ニシテ廉ナル好評ヲ得タルハ茲ニ贅セス乞フ一本ヲ購ヒ其眞價ヲ知ラレヨ

出版書目

醫學士高橋眞吉先生
醫學士岡本武次先生合著

●實用內科全書 全一册

第三版 菊判總クロース包脊金字入美本石版挿圖十七圖
正價金壹圓二十錢 郵稅金八錢

本書ハ去ル二十三年六月發兌以來**第二版**ヲ出シ非常ノ高評ヲ得一年ヲ出テスシテ今又タ**第三版**ヲ出スニ至レリ以テ本書ガ如何ニ眞價ヲ有スルカヲ知ルニ足ラン茲ニ第三版ノ出版ヲ告ク

醫學博士河本重次郎先生校閲
瀨尾昌索先生纂著

●實用眼科學 下卷之一

◎目次◎網膜、視神經諸病、視官機能檢查法、弱視及黑內障篇 實價金八拾錢 郵稅金六錢

●紙數二百頁、精圖拾餘箇、彩色畵表一葉石版視對表三葉挿入

上卷 訂正第二版 實價金七拾錢 郵稅六錢

中卷第二版 目下印刷中 實價金八十錢 郵稅金六錢

下卷ノ二近刻

岡山市石關町
渡邊千代治

賣捌書肆

日本橋區馬喰町二丁目　島村利助
仝　通三丁目　丸善書店
本郷區湯島切通坂町　南江堂
仝　金原書店
仝　文祥堂
仝　區春木町三丁目　島利支店
仝　區春木町二丁目　半田屋
仝　區龍岡町　吐鳳堂
仝　區元富士町　豊文堂
神田區鍛冶町　朝香屋
京都市寺町通二條　若林茂一郎
大阪市心齋橋筋壹丁目　松村九兵衛
岡山市石關町　渡邊千代治

明治廿六年八月　六　日印刷
明治廿六年八月十二日發行

（實價金七拾五錢）

著者　柴田耕一
愛知縣名古屋市仲之町三丁目三百廿二番戸

發行兼印刷者　高後轍
東京市日本橋區本石町四丁目四番地

印刷所　成功堂
東京市日本橋區本石町四丁目四番地

發兌元　成功堂
同所

略字説明

骨盤

イ……薦骨岬

ロ……耻骨縫合

ハ……腸骨前上棘

ニ……腸骨櫛

ホ……薦腸骨關節

ヘ……坐骨結節

ト……尾骶骨

ritte der Medicin, Heft 14. 1891）及び瑞西醫師同盟雜誌（Correspondenzblatt für schweizerAerzte）等にも該模型を賞賛するの評論を掲げたり併し之を悉く茲に譯載或ハ轉載するも益なければ之を略す

(六) ファルツ洲醫會雜誌 千八百九十一年 第七號

(Vereinsblatt der pfälzischen Aerzte No 7. 1861.)

ドクトル、柴田氏ハシユルツエーウヰンケル氏の大模型の代りに厚紙を用ゐて自然大三分一の小模型を製出したり實に異常産に於て胎兒諸部と産道との關係を迅速に明知するは蓋し多くの醫師の甚た難しとする所なり著者は深く此點に注意し極めて單簡に最も確實に此難事を除くとを得たり(中略)該書の價値あるはウヰンケル氏の適節なる序文に徴して明かなり

グート誌

其他ライプチヒ府醫事新聞(Reichs-medicinischer Anzeiger, Leipzig No. 12. 1891) 醫師同盟新誌 (Aerztliches Vereinsblatt No. 230. 東京醫事新誌第百七十八号、醫學進歩 (Fortsch-

めざるべからず而て之を爲す惟だ種々なる診斷法にて知了したる事實を或は略圖に畵し或は解剖的標本若くは其模造品を指示して以て說明するに如くものなし

從來產科學の敎授には殆んど常に骨質骨盤と人形若くハ死胎を使用せり然るに學生よして如斯物体を所有する者殆んど稀きなり且つ又た學生にして獨習に際し或は講筵に於て不審の事件に遭ふ每に未ゟ嘗て直ちに之を明瞭にするの要具に乏きを嘆せざる者なかりき

今や柴田氏の產科模型は良く如斯欠點を補ふを得ゟり即ち世人は之れに由りて各種の胎位体向及体勢を甚た容易に模擬するを得べきなり實に是れ產科學敎授上は勿論實地上に於ても鴻大なる便益を與ふるものなり

スツンプ誌

る所なし他日其產科初學の學生及產婆等の間に莫大なる需用者を得るは記者の保證する所なり

（四）獨逸醫事週報 第千八百九十一年 第三十四號

（Deutsche medicinische Wochenschrift No. 34. 1892.）

ミユンヘン府レーマン書舖の出版に係る東京出身ドクトル柴田氏の產科模型は學生と醫師とに最も必要なる小冊子なり而て其實用に適するはミユンヘン府ウヰンケル氏が序文に於て大に賞賛したるよ徵して明白なり

（五）民顯醫事週報 千八百九十一年 第十一號

（Münchner medicinische Wochenschrift No. 11. 1891.）

診斷學を敎授するよ當りては宜く先づ學生をして其想像を容易ならし

に學生をして演習及ひ復習に之を使用せしめんとの柴田氏の希望は遂に其目的を達したり（中略）該書は廉價にして模型の圖畫は極めて精巧なり茲を以て學生及び産婆等の産科修業の爲め必ず之を使用するに到ると蓋し疑ひを要せざるなり

伯林　カ、ルーエマン誌

（三）大英國愛蘭士ダブリン府醫學雜誌

（The Dublin Journal of medical science. 3. series.
No. CCXXXVIII. 1681.）

（前畧）惟ふに著者の目的は運搬に至便なる人形と骨盤とを最も廉價に製出し以て各學生の需用に適せしめ且つ同時に之を産科の指示教授の實用に供せんと欲するに在り而て該模型の構造は注意周到一も間然す

一個の骨盤と二個の胎兒とは紙を以て自然大の三分の一に製せられ其動くべき頭と四肢とは動くべき軀體と關節とに由りて連繫され而て此簡便なる裝置は具く各種の胎位及其器械的運動を明示するを得べきなり

簡便と適節と廉價とは正に教授ウヰンケル氏の稱賛せる序文と著者が日本特有の精巧に依りて造りたる模型とを欺らず多くの產科初學者をして之を利用せしむるに到ると蓋し日を期して竢つべきなり

ブロイス誌

（二）婦人科中央雜誌 千八百九十一年 第三十七號

（Centralblatt für Gynaecologie No. 37. 1891.）

一種の產科教授用の模型を製出して以て何れの時何れの所を問はず常

其他チユーリヒ大學產科婦人科教授ドクトル、ウイーデル氏ギーセン產科婦人科教授ドクトル、ロエライン氏ミユンヘン府產科婦人科專門ドクトル、ヱル、チイゲンスペツク氏等の書翰は皆な大同小異なるを以て略す

新聞雜誌の贊評

（一）維也納醫事雜誌　千八百九十一年　第三十四號

（Wiener medicinische Presse No. 34. 1891.）

凡そ袖診書籍の中にて目下ミユンヘン府ウヰンケル氏の「クリニツク」に於て脩業しつゝある日本の醫ドクトル柴田氏の考案に成れる產科用袖珍模型は產科學演習に最も適宜且つ輕便なる裝置と云ふも決て不可なかるべし

に適するものと信じ候に付早速明日の妊婦診察時を竢て之を同僚幷に聽衆に示し大に稱賛可仕候拜具

千八百九十一年三月二日　ドクトル、ハー、フロインド

尊敬する同僚柴田君

（五）ライプチヒ大學産科婦人科教授ドクトル、ゼンゲル氏の書翰

拜呈貴君の御考案に成れる模型御惠與被降難有深謝仕候該模型の速に世の好評を博するは拙者の信して疑はざる所に御坐候（中畧）拙者は本日拙者の講義に際し貴君の模型を聽衆に指示し且つ稱賛致度存候拜具

千八百九十一年三月二日　ゼンゲル

同僚柴田君

トル、シヤッツ氏の書翰

模型の御惠與を蒙り拜謝の到に候學生及醫師の之を利用して其恩澤に浴する者の多きは拙者の萬々保證する所よ御坐候實に拙者も亦數年來兒頭の位置を成るべく明瞭に模倣せんか爲め類似の紙製模型を造り寫眞を用ゐて器械的作用を示せしが將來拙者ハ貴君の模型を稱用致し度存候拜具

千八百九十一年三月五日　　シヤッツ

尊敬する同僚柴田君

(四)ストラースブルグ大學產科婦人科教授ドクトル、ハ、フロインド氏の書翰

拜啓貴下御高案の袖珍模型御寄贈に預り喜悦の到りに候右は甚だ實用

千八百九十一年二月三日　ア、マルチン

尊敬する同僚柴田君

（二）エルランゲン大學産科婦人科教授ドクトル

フロンメル氏の書翰

拜呈貴下御考案の袖珍模型御送與被下奉深謝候右ハ産科學教授上甚だ有力なる要具と信じ候に付拙者ハ拙者の講筵に於て遍く稱賛致可申候

頓首

千八百九十一年三月四日　フロンメル

尊敬する同僚柴田君

（三）ロストック大學産科婦人科教授樞密醫官ドク

該模型一度世に出るや歐洲諸國の產科婦人科專門の大家も續々著者に向けて賞賛の書を寄贈し又た醫事に關する新聞雜誌は先きを競ふて賛評を紙上に掲載したり今其重要なるものを茲に譯載して以て該模型が歐洲に於て博したる好評の一斑を示さむと欲す

諸大家書翰の和譯

（一）伯林大學產科婦人科教授ドクトル、アー、マルチン氏の書翰

拜呈陳者產科袖珍摸型御惠與被降恭く受納仕候實に該模型の學生と醫師との爲め莫大なる恩賜なるとは千萬保証仕候也拜具

兒背前方にあるものを甲ハ第一分類とし
兒背後方にあるものを乙又ハ第二分類とす

兒頭右側にあるものを第二斜位とし
兒背前方にあるものを甲又は第一分類とし
兒背後方にあるものを乙又は第二分類とす

終に臨んで一言すべきは恩師民顯大學産科院長樞密醫官、プロフエッソル、ドクトル、フヲン、ウヰンケル氏が此摸型を作るに際し懇切なる補助を與へられたると此小册子の巻首に於て同氏自ら序文起草の勞を取られさるとを深く謝す

（乙）骨盤端位

（一）臀位

（二）臀足位

（三）足位（全、不全）

（四）膝位

以上の諸胎位に於て若し兒頭右側に兒背左側に左臀部前方にあるときは第一とし、之れに反して若し兒頭左側に、兒背右側に、右臀部前方にあるときは第二位とす

第二　斜位（横位）

兒頭左側にあるものを第一斜位とし

第一　直位又縱位

（甲）頭顱位（頭位）

（一）頭蓋位（後頭位）

（二）顏面位

（三）前頭位（額位）

（四）前顱頂位

以上の各胎位にありて兒背若し左側に在り其小部右側に在るときは第一位とし、若し之れと反して兒背右側に在りて其小部左側に在るときは第二位と稱するものなり

第七圖　第二斜位第二分類



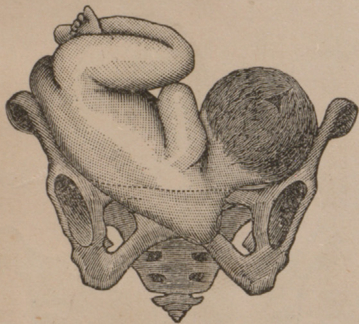
き場合には前置せる上肢の脈搏を觸診して以て胎兒の生死を撿知すべきなり第一斜位及び第二斜位の別は兒頭子宮の左側に在ると右側に在るとに由て之を定め又兒背の前方に位すると後方に位するとに由て甲乙（第一分類及び第二分類）の二種に區別するものなり今以上の諸胎位を最も簡單に示さんに左の如し

胎位

臀部は子宮底部に近接す故に若し小部の脱出することあれば必らず先づ其上肢あることを推知し得べし、頭部は子宮の一側に臀部は他側に位し、兒背は前方に向ふか或は後方に向ふものあり又前置する部は大抵肩胛の一部若くは一腕若しくは一手なりとす、兒背の方向は其前置部に依て豫定することを得べく、心音は斜位の各種に由て其位置を異にするものにして兒背若し前方に向ふときは通常恥骨縫際上部に於て聽取するを得べしと雖ども兒背若し后方に向ふときは、間々生胎兒に於て心音を聽取し能はざるものあり、而して此の如

凡て前條に說明したる直位則ち頭蓋位及骨盤端位に在りては胎兒の縱軸子宮の縱軸と併行するものなれども斜位に在りては之れに反して二軸多少の角度を以て交叉し隨て胎兒縱軸は子宮內に於て子宮の斜軸若くは甚だ稀に横軸を取るに至る故に之を名けて斜位若くは横位とも云ふ、（第六圖を見よ）此の胎泣に在りても頭部は大低臀部より少しく下方に位し、而して

第六圖　第一斜位第一分類



（兒頭左方ニアリ右肩先進シタルモノヲ示ス）

第五圖　第二臀足位



趣を同するものにして、唯だ足部が臀部と同時に前置する別あるのみ

（三）足位　此の胎位にありても一足若くは兩足の前置するに由りて甲を不全足位と稱し乙を全足位と稱す

（四）膝位　此の胎位は兩膝部の前置するを云ふ

第二　斜位又横位（Schieflagen, Querlagen）

て聽取するを得べし

（ロ）第二臀位　此の胎位に在りては兒背は、右側に位し兒頭は子宮底の左側に存し、而して胎兒心音は臍部、若くは其上方の部にして少しく外側に偏し即ち子宮の左側壁に於て聽取するを得べく胎兒尾骶骨部は右方に肛門は左方に在りて、而して肛門溝は骨盤第二斜徑を取り、又兒体股關節横徑は骨盤の第一斜徑を取れり、右臀部は此場合に於ては前置せり、故に分娩後其部及び生殖器部に於て多少の兒血瘤を認めしむるものなり

（二）臀足位（第五圖を見よ）　此の胎位は略ぼ臀位と其

異にすること左の如し

（二）臀位（Steisslagen）

（イ）第一臀位　此の胎位に在ては第一頭蓋位に於けるが如く、兒背は左側にありて頭部は一大圓塊となりて子宮底の右側に於て觸れしめ、左臀部は前方に向ひ、肛門も骨盤入口部の中央に位し、而して肛門溝は骨盤の横徑若くは第一斜徑を取り隨て兒体股關節の横徑は第二斜徑を取れり（第一斜徑又は右斜徑とは右薦膓骨關節より左膓恥骨結節に向ひ畫したる線を云ひ第二斜徑又は左斜徑とは之に反して左より右に走れるものなり）心音は腹部の中央即ち臍部、若くは少しく其上方に於

規則に從はざる破格の場合なりと雖も是れ決して兒背が子宮內に取りし本來の位置を以て說明するを得ずして寧兒背側方に止まりて獨り後頭部のみ后方に轉位するに由て說明すべきなり、何となれば兒背は頸部の廻轉に伴ふて頭部と共に動くを要せざるを以て後頭部が前方に廻轉するときと雖も兒背は常に子宮の側方に傾けると同一理なればなり、故に前顱頂位は頭蓋位に於ける器械的働作の一破格と認むべきものなり

（乙）　骨盤端位　(Beckendlagen)

骨盤端位は其前置する諸部の異なるに由て各其名稱を

第四圖　前顱頂位



しれ變位にあらずして寧頭蓋位に於ける僅微の破格と認むべきものなり而して該胎位の由て起る所以のものは分娩經過中後頭部が前方に廻轉せずして反て後方に向ふて廻轉し隨て會陰部を超過するに在り然れども後頭部其以前をり已に後方に向ひゐるを往々なきに非らずと雖も此の如きものは後に至り前方に轉位するものなり而して此

第三圖　前頭位



面位の中間に位するものにして、顔面は骨盤中央部の上に横はり、而して前頭の尖端は其最下位を取り大聰門も顱頂骨の前部と共に骨盤の一側に在り而して鼻根眼窩緣及ひ其他の顔面部は他側に在り、前頭縫合は骨盤の横徑或ハ斜徑を取るものなり

（四）前顱頂位（前顱頂向）（第四圖を見よ）是れ決して著

左上方より右下方に走り胎兒心音は臍下の右側に於て聽取せしむ

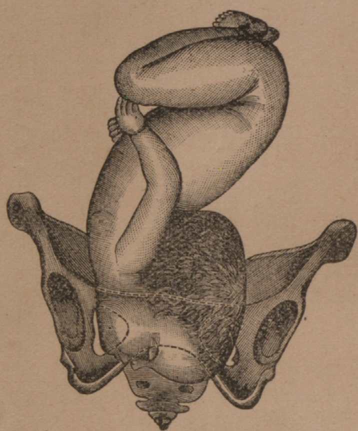
第二顔面位此胎位に在りては、兒背は右方に、小部（四肢）は左方に位し、臀部は子宮底の右側に存し、心音は臍下の左側に於て聽取せしむ、而して顔面は分娩初期に至る迄は横位を取り顖は或は全く左方に在るか或は多少前左方に在りて前額は之れに反して或は全く右方に在るか或は多少後右方に在るを常とす該場合に於ける前置部は顔の左半部とす

（三）前頭位（第三圖を見よ）該胎位は則ち頭蓋位及び顔

兒頭が自家の横軸を廻轉し以て成るものなるが故に顏面位に在ても亦此の如きものは第一顏面位と名けられ、且つ最も多く吾人の遭遇すべきものは前額が全く母体の左側に向ひ、或は少く前方に又時として後方に向ひ頤が其の右側に向ひ或も少く後方に又時をして前方に向ける所の顏面位を以て然りとするものなり而して該場合に於ては顏面の右半側ハ胎兒の最下部を取るものにして此胎位にて分娩したる胎兒ハ、顏面の右側殊に右口角部及右顴骨部に於て血瘤を認めしむ、又臀部は子宮底の左側、四肢は右側ニ位して其背部ハ斜に

る一側の臍下に於て聽取せしむ、更に顔面位を分て二とす

第一顔面位（第二圖を看よ）前章に於て已に説明せしが如く胎位中最も多數を占むる所の第一頭蓋位に在ては、兒背若くは後頭部を左側に位し、而して顔面位は素と斯の如き



第二圖　第一顔面位

頭蓋位に於ける兒頭の後頭部骨盤に支へられ、隨つて

小聽門は右方に位し數〻分娩初期に在りては後方に位せり、而して大聽門も稍上方ありて且つ數〻前左方に在るが故へに兒頭の小斜徑（Der kleine diagonale Kopf-durchmesser）は骨盤の第一斜徑に併行するものなり（第一即ち右斜徑とは右薦腸骨關節より左腸恥骨結節に至る假線を云ふ其距離一二、五仙迷なり）

（二）顔面位（顔面向）は元來頭蓋位の變向としたるものにして、即ち顖部の胸部より遠かり、後頭部の項部に近づきを以て顔面の大部をして前置せしむるに至りしものなり、胎兒心音は頭蓋位に於る如く、兒背の存在する一側に於て聽取せしめずして、反つて其對側即ち四肢の在

に達せり
第一頭蓋位に在りては兒背を母体子宮の左側に位し、四肢は其右側に、而して臀部は子宮底部の左方に位するものにして、胎兒心音を臍及び左腸骨前上棘間の中央部に於て聴取するを得べく、頭部は分娩の初期に當ては橫徑を取り小聴門は左方に大聴門は稍少く右上方に位するものなり
第二頭蓋位に在りては、兒背は母体の右側に位し多くは少く後方に向ひ、兒足は左上方に在り、胎兒心音は右側に於て特に臍下凡そ一手掌幅の處に於て聴取すべく

とす、
（一）頭蓋位とも第一圖の如く前章に記載する通常の体勢を以て兒頭の骨盤上口部の上に位するものを云ふ、分娩百中の九十三乃至九十五を皆此頭蓋位として、就中歐洲各國に在りては兒背の左方に位する所謂第一頭蓋位最も多數を占め、第二頭蓋位より多きを殆ど二倍

第一圖　第一頭蓋位



胎位とは胎兒縱軸及び子宮縱軸相互の關係を云ふ者にして、若し二者殆ど同一の方向に在るときは之を直位或は縱位と稱し、又胎兒軀幹の兩端（頭或ハ骨盤端）の前置に由り更に之を頭顱位及骨盤端位に區別し、而して若し胎兒及び子宮の兩軸互に多少の交叉を爲すときは之を斜位若くは横位と稱す

第一　直位（Geradlagen）

（甲）　頭顱位（Kopflagen）

頭顱位を分つて頭蓋位（Schädellagen）顔面位（Gesichtslagen）前頭位（Stirnlagen）前顱頂位（Vorderscheitel-stellung）の四者

は之を頭蓋位第二体向と云ふ更に之を省略して第一若くハ第二頭蓋位を稱す、又斜位（即ち横位）に在りて兒頭左側に位するときハ斜位（横位）第一体向と云ひ右側に位するときハ斜位（横位）第二体向と云ふ、更に之を省略して一般に第一若くハ第二斜位と稱せり、又兒背の前後の位置に依て分類を定む即ち斜位に在りて兒頭左側に位し而して其背部前方に位するときも第一斜位の甲（第一斜位第一分類）と稱し、若し之に反して背部後方に位するときは第一斜位の乙（第一斜位第二分類）と稱す、

（第三）　胎位

ハ通常其膝關節に於て屈折して以て下腹部ニ近接し足部ハ足關節に於て强度の伸展を爲し、其左右の蹠面は互に對向す、

臍帶ハ通例上肢と下肢との間に位す、

以上は尋常の体勢にして分娩時に至る迄ハ大抵變化するをなきものとす、

（第二）体向

体向とも兒体の前置せる部と骨盤腔（骨盤徑）との關係を示すものなり例へば頭蓋位にして兒背母体の左側にあるときハ之を頭蓋位第一体向と云ひ右側に在るとき

胎兒の位置に三種あり

（第一）　体勢又体狀（Haltung, habitus）

（第二）　体向（Stellung, positio）

（第三）　胎位（Lage, situs）

（第一）　体勢又体狀

体勢とは胎兒の軀幹、頭、及四肢の諸体部相互の關係を云ふものにして通例胎兒の子宮內に在るや、軀幹は前方に甚だく屈曲し、頤部は胸部に接近し上膊は胸部の側方若くは其前方に在り、前膊は大抵屈折して胸部の前方に於て交叉するか若くは併置するを常とし、下肢

ち横位各種の用に供す、
頭部各處の周圍徑ハ多くの產科書中に記載されざるを以て、余は之をウインケル氏の產科書中より秡粹し、示すに點線を以てし、傍らに其實數をも合せ記載せり、
此模型を使用せんにハ先づ胎兒を取り出し、（直位のものを作らんと欲せば宜く甲の胎兒を又斜位のものを作らんと欲せは乙の胎兒を用ゆべし）卷尾に固着しある骨盤內へ挿入し、先づ其頭部を或は骨盤入口部、或は骨盤最廣部或ハ骨盤下口部に置き以て頭部の占むべき骨盤內の部位を定め、然る後諸般の位置を作るべし、

らざるに已に第二版を出さゞるを得ざるに至れり、抑も余が之を製出したる主意は學生產婆及醫師等をして最も單簡に、胎位、体向、体勢、等を了解せしめんと欲するに外ならず、何となれば之を識ると識らざるは產科學上豫後及び治療に最大關係を有すればなり、

夫れ然り故に余の模型は專ら輕便を主とし、厚紙を以て自然大の三分の一に作りたる骨盤一個と胎兒二個とより成れり、而して其頭部、四肢及軀幹は悉く自在に廻轉するを得べし、且つ甲の胎兒(則ち側面のもの)は直位各種の用に供し、又乙の胎兒(前面のもの)は斜位則

惟だ學校の所有にのみ歸し、一般學生等の自用に適せざるを遺憾とせり、
其他クラインウエヒテル氏の紙製模型なるものありと雖も、是れ又僅に頭蓋位各種に於ける頭部の變形を示すに過ぎざるなり、
余は産科用模型の必要を感ずると同時に從來世に用ゐらるゝ模型の不廉且つ不便の大なるを感ぜしが爰に歳あり、嘗て獨逸國民顯府に在りし時百方考案を廻らし、遂に此の輕便なる一小模型を製出し、之を獨逸文に著述し世に公にせしに大に世の好評を博し未だ一ヶ年な

に於て容易ゕ行ひ得べき頗ゐ完全なる模型を作り出したり、

目下獨逸國內一般ま行はる、模型はヱナ府の教授シュルツェ氏の發明に係り、之に恩師ウインケル氏の改良を加へたるものましてて其搆造ハ諸君子の熟知せらる、を以て爰ま之を略す、

以上列記したる模型は凡て演習用の爲めに製せらるき世人は專ら之ゕ依て胎位の診斷及手術等を示し得べきものなり、然りと雖ゟも、彼等ハ皆其裝置の大なるが爲め運搬ま不便なると且つ其價の不廉なるとの弊あり、隨て

四年フローリップ氏は之に代へるに厚紙を以てし、專ら製造を容易にし、需用を擴張せるを企圖したり、又佛國のチセーン氏の模型は母体諸部を容易に廻轉し得べきものにして之れに胎兒を用て産科諸般の狀態を示し伯林府エ、マルチン氏の模型は子宮口として硬革製の圓板に大小各種の孔を穿ちたるものを用ゐ之に由て子宮口擴張の度を示しあり、

近年に至り巴里府のマテウ氏はビユダン及ピナーの兩氏に倣ひ普通若くは狹小骨盤に於ける外診及び外廻轉術のみならず總ての內手術に至るまで、背位或は側位

伯林府の醫ヘンケル氏は玻璃製の子宮に死胎若くは人形を用ゐて産科諸術を示し後ち一千七百七十年に至り、巴里府の産婆ビヱロン子ハ最も精工を極めたる全骨盤を作り始て之に模型(Fantôme)なる名稱を下し、永く同府の大學に納めたり、

維巴維府に在ては、十八世紀の初年、ウュルツブルグ府に在ては、同末年に女子屍体を産科的手術の教授用に供せしことあり、ヱナ府のスタルケ及ゲッチンゲン府のヲシアンデルの兩氏は、子宮胎兒及臍帶等悉く革を以て作りたれども、其價頗る不廉なるが故に、一千八百〇

袖珍 產科用模型

醫學士 ドクトル 柴田耕一著

抑も、產科用模型の歷史及沿革を尋ぬるに一千六百九十七年、瑞典國の醫ファンホールン氏、佛國巴里府に於て一模型を考案し、次で歸國の後產婆學校長に任ぜられ專はら其模型に就きて產科を教授せしを以て始めとす、實に其模型は眞の女子骨盤と革製の胎兒とより成れりと云へり、其後十八世紀に至り英國の醫スメリー氏は籠細工に綿布を纏絡したる模型を作り、又獨逸國

し恰も好ゑ本年第二回日本醫學會の開れるに際し余は之を世に報告したるに世人は之れを聞て一日も早く出版し以つて世の需用に應ぜよと催すこと切なりき茲に於て余は原著に訂正を加へ書肆成功堂高後に命じて邦語を以て之れを出版せしむることはなしぬ希くは同好の士之れを要地に試み以て講學の一助となすを得ば余の幸何物か之れに如かん、

月　日　　　　　　　編者誌

Taschen-Phantome von Dr. med. K. Schibata. を以てし恩師ウインケル氏に序文を乞ひ獨逸文にて世に公にせしに大に世の好評を博し曾に未だ一ヶ年を經ざるに已に第二版を出さゞるを得ざるの好運に到りしのみならず卷末に列擧せるが如く獨逸國に於ける有名なる諸大家より續々賞賛の書を寄贈され且つ獨逸、墺地利、愛蘭土瑞西諸國の醫事に關せる諸雜誌は何れも賛辭を述べざるものなきに到れり今や余は歸朝し吾醫學社會の狀況を觀察するに本邦に於ても亦實地家醫學生幷に産婆等の斯の如き簡便なる模型の必要を感ずること甚だ大なるが如

自序

余嘗て獨逸國に留學し民顯府大學産科婦人科醫院教頭プロフェッソール、フォン、ウインケル氏に親炙し無給醫員を勤めたりしとき遇々學生の臨床講筵に於て胎位体向体勢等の診斷を誤る者多きを目撃し以爲く是れ蓋し世にシュルツェー氏及ウインケル氏の産科模型なるもの有りと雖も如何せん其構造の大なると其價の不廉なるとの爲め學校用の外一般學生の複習用等に適せざるに職として由らずんばあらざるを遂に百方考案を廻らし此簡便なる紙製模型を製出し名くるに Geburtshülfliche

千八百九十一年

ミユンヘン府に於て

エフ、ヴインケル

學生は云に及ばす醫師と雖も胎兒部分と母体生殖器との關係を速に明知せんと欲する者は柴田君の袖珍模型を以て廉價に且つ便宜に婦人骨盤及胎兒模型とを補ふを得べし又該模型は產婆試驗用幷に復習用に最も適す何となれば彼ハ產婆等受驗者の果して種々の胎位体向体勢等に正當なる知識と想像とを有せる乎を試むるに好き方便を與ふればなり

余ハ以上陳述したる原因に由り公に同學の士に向つてドクトル、柴田君の模型を使用せんヿを切望せんと欲す

自然の狀況を模擬するを得べし而して体部特に頭部が種々の胎位に於て骨盤を通過する際に其最大周圍徑を取るべき部分ハ悉く點線を以て明示され加ふるに周圍徑の實數を以てす故に骨盤内に於ける頭部の位置を明知するは極めて難しと雖も人該模型を用ゆる時は容易に之を了解するを得べく又適々胎兒娩出法を要する場合に到り鉗子應用の判決を容易に下すを得べきなり是れに由りて之れを見れば該一小模型は則ち豫期の如く一篇の產科書中に存せる幾多の圖畫を良く代償するものなり

スキー氏の製造に係るものと雖も尚は且つ正當なる胎位、体向、体勢等を示すに往々困難なき能はず況んや爾他不完全なる類似の模型に於てをや頃日門人ドクトル柴田君斯學を脩めんと欲する者の爲めに一新趣向の産科用模型を創製發賣し以て彼の徒をして時と場所とを選ばず常に錬習と複習とを爲すを得せしめんと計れり是れ實に價値ある美擧にして世人は是れに由りて以て容易に胎兒の種々なる尋常位置并に小部脱出の合併等を隨意目前に摸倣するを得べく又顔面位、前額位、前顱頂位及び斜位等に於ける軀幹縱軸の屈折の如きも良く

獨逸國民顯大學產科婦人科教頭プロフェッソール、ドクトル、フランツ、フォン、ウィンケル氏序の和譯

凡そ產科學を教授せんと欲する者は須く先つ學生をして斯學に樞要なる諸般の狀態上に可及的速に正當なる想像を下さしめざるべからず蓋し學生も是等に由りて常に講學の便を得べき者なり然るに從來此の點に向つて使用されゐる產科用模型は概ね幾多の欠點を有し且つ學生の需用に常に良く應ぜるものにあらざる爲めに吾人をして轉た隔靴搔痒の感あらしむるを久しかりき實に革製の胎兒模型は彼の最良と認められたるブライ

und -Haltungen hat, indem man durch sie dieselben im Phantom zurechtlegen lässt.

Aus allen diesen Gründen glaube ich also den Fachgenossen das Phantom des Herrn Dr. Shibata bestens empfehlen zu können.

München, 30. Jaunar 1891,

F. Winckel.

eine richtige Anschauung zu verschaffen und so zugleich ein Urteil über die Haltung der Zangengriffe bei etwa nothwendig werdender Extraction zu gewinnen. Das kleine Taschenphantom ergänzt daher die Abbildungen der geburtshülflichen Lehrbücher nach verschiedenen Richtungen hin in erwünschter Weise.

Und nicht blos dem Studierenden, auch dem praktischen Arzt, welcher sich z. B. rasch über die Verhältnisse der Kindesteile zu den mütterlichen Sexualwegen ins klare bringen will, kann das Taschenphantom des Herrn Dr. Shibata den Ersatz eines weiblichen Beckens und einer Kinderpuppe in bequemer und billiger Weise liefern. Darum eignet es sich endlich auch zum Gebrauch in dem Examen von Hebammen und bei Repetitionen mit denselben, weil es eine sehr praktische Gelegenheit gibt zu prüfen, ob die Examinandin die richtigen Kenntnissen und Vorstellungen von den verschiedenen Kindeslagen,-Stellungen

zu konstruieren, welches denselben aller Orten und jederzeit zur Übung und Repetition dienen könne, ist also gewiss berechtigt. Denn die Einstellung der verschienenen normalen Kindeslagen ist in demselben sehr leicht, auch die Komplikationen durch Vorfall kleiner Teile sind gut zur Anschauung zu bringen.

Bei den Gesichts-, Stirn-und Vorderscheitelstellungen, sowie bei en Schieflagen lassen sich die Einknickungen des Rumpfes über seine Längsachse naturgetreu nachahmen.

Die Stellung der Kindestheile, besonders diejenige Peripherie des Kopfes, welche bei den verschiedenen Lagen des letzteren als grösste das Becken passiert, sind an dem Kopf durch Linien bezeichnet, auf denen zugleich die Grösse des betreffenden Umfanges notiert ist. Dadurch wird es dem Studierenden möglich, sich gerade über die besonders schwierige Frage, in welchem Raum des Beckens der Kopf stehe, jeden Augenblick

Vorwort zur ersten Auflage.

In dem geburtshülflichen Unterricht ist es sehr wichtig, dem Studierenden möglichst bald richtige Vorstellungen von einer Reihe von Zuständen zu verschaffen, mit deren Kenntnis er fortwährend zu rechnen hat. Die bisherigen geburtshülflichen Phantome, welche dieser Art des Unterrichts dienen sollen, zeigen noch mancherlei Mängel, sind nicht jeden Augenblick dem Studierenden zugängig und die Kinderpuppen aus Leder — selbst die besten nach der Angabe von Breisky verfertigt — bieten der richtigen Darstellung der verschiedenen Lagen, Stellungen und Haltungen des Kindes mancherlei Schwierigkeiten dar. Der Versuch meines Schülers des Herrn Dr. Shibata, eine Art von Taschenphantom zum Gebrauch der Studierenden

Geburtshülfliche

Taschen-Phantome

von

Dr. med. K. Shibata.

s. Z. Volontärarzt an der Universitäts-Frauenklinik, München.

Mit einer Vorrede

von

Prof. Dr. Franz von Winckel

Tokyo, 1893.

Verlag von Sēkōdō.

独逸國民顯大學婦人科産科教頭樞密醫官
プロフェソル、ドクトル、フランツ、フォン　ウインケル氏序

日本醫學士、ドクトル　柴田耕一考案

紙製袖珍　産科模型　完

成功堂發兌

甲圖

斜位

乙圖

直位




前后頭囲
甲
米田氏考按
産科模型
成功堂發兌




乙
柴田氏考按
産科摸型
成功堂發兌


イ
ホ
ロ
ト



醫學士（ドクトル）柴田耕一考案

紙製袖珍 産科模型

成功堂發兌